

経済学部商業学科通信教育課程

I 2019年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2019年度大学評価結果総評】(参考)

経済学部商業科通信教育課程では、通学課程と同水準の教育内容を提供するとともに、多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生のために、経営学、会計ファイナンス、商学に関連する領域を広く履修できるようバランスの取れたカリキュラムが提供されている。2018年度は、学習利便性の高いメディアスクーリング科目が拡充された。

学習指導は、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に行われている。また、夏季・冬季スクーリングにおいて、教員と学生間での情報交換の場が設けられていることは興味深い。学習成果の評価は、スクーリングの最終試験、レポート添削、単位修得試験によって具体的に把握されている。成績分布、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等の状況は教授会を通じて情報が共有されている。

通信学習、メディア・夏季・冬季・地方スクーリングのすべての科目について、学務委員によるシラバスの第三者確認が適切に行われており、成績評価と単位認定の適切性が担保されている。

2019年度から始まる通学課程の新カリキュラムとの連携やメディアスクーリング科目の質の向上により、カリキュラムの一層の充実が期待される。一方で、これら科目の質の評価をどのように行うか、今後の検討に期待したい。

出願者数や入学者数の増加、離籍率の低減については、通信教育課程というシステム上、困難であることは予想されるが、学習指導方法の充実や学生受け入れ時の選考方法などを総合的に検討し、今後の推移を慎重に見極めながら適切な対応が期待される。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

経済学部商業学科は、幅広い年齢層、多様な学問的関心や様々な入学動機などを持つ学生に応えられるカリキュラムを提供すると共に、実社会で通用する問題発見能力と課題解決能力を養うために、さらなる授業内容の充実化と授業形態の多様化に努めた。

学習指導については、学習質疑制度(通信学習)、授業後質疑(スクーリング科目)、あるいは教員と学生間の情報交換(夏季・冬季スクーリング)に力を入れることで双方向コミュニケーションをさらに促進させた。

成績評価や単位認定については、学務委員によるシラバスの第三者確認をこれまで通り厳密に行なった上で、成績評価についてもこれまで通り、教授会で情報共有した。

カリキュラムの一層の充実については、2019年度から始まった通学課程の新カリキュラムとの連携する方向で動いた。通信教育部の経済学部商業学科のホームページに掲載したカリキュラムツリーとカリキュラムマップにより、経営学・商学・会計学・ファイナンス、経済学、そして情報・統計学などの専門科目の位置付けと相互関連性を明確にしつつ、通学課程のカリキュラムとの一体感を醸成した。メディアスクーリング科目の質は、撮り直しや新規開講も含めて、質の向上が図られた。

出願者数や入学者数の増加については、直近3年間に比べてやや増加傾向にあるが、学習指導方法の充実が長期的にはプラスに働くという想定のもとで、上述した双方向コミュニケーションを充実させるなど、より一層の努力を投入した。離籍率の低減については、長期的な取り組みとして、学生受け入れ時の選考時に本学科への適性或学習意欲を注意深く判断することで、学生ニーズと提供するカリキュラムとのミスマッチを防いだ。

【2019年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、学生の多様な社会経験や学習ニーズに応えるため、2019年度から開始された通学課程の新カリキュラムとの連携やメディアスクーリング科目の取り直し及び新規開講が行われるなど、バランスの取れたカリキュラムが提供されている。また、教員、学生間で双方向コミュニケーションによる学生指導が行われており、長期的に出願者数や入学者数の増加が期待される。さらに、離籍率の低減は通信教育課程の課題であるが、学生の受け入れ時において、学科適正や学習意欲を注意深く判断するなど、カリキュラムとのミスマッチを事前に防いでいる。今後の推移を見極めながら、引き続き適切な対応を期待したい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2020年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

か。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>商業学科では、通学課程で提供している教育内容と同様な水準の学習が出来るよう、毎年の授業編成においてバランスの取れたカリキュラムの提供に努めている。それと同時に、各担当教員は、通信教育課程に特有の多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生のために、授業運営や学習方法の工夫にも力を入れている。加えて、商業学科には職務経験を有する教員が少なくないため、より実践的な学習内容の提供も可能となっている。</p> <p>商業学科では、通信学習および各種スクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間と終日3日間の夏・冬期スクーリング、夜間開講の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリングと、その形態は多様である。通信教育部の重点目標であるメディアスクーリングの拡充に向け、商業学科では、2019年度には25科目を設置、その内24科目を開講した。</p> <p>【2019年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>2018年度における当該項目の自己点検・評価がSであったため、現状を維持したまま、各担当教員が授業内容や運営方法などの質的な向上を行なった。</p> <p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> 法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムツリーの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-tree.pdf 法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムマップの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-map.pdf 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>卒業単位124のうち専門科目は82単位であるが、その構成は選択必修科目が20単位、選択科目は62単位となる。専門科目については、経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮している。また、意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置している。現在の商業学科は、日本の通信教育課程において、体系的な経営学の教育を実現した学科の1つとなっていると言える。</p> <p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/#menu 商業学科カリキュラムツリーとカリキュラムマップ 『学習のしおり』2020 	
1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> Web学習サービスによる授業計画管理 学習ガイダンス(事務ガイダンス、卒業生による体験ガイダンス・相談、教員による学習指導、教職ガイダンス)による履修指導 <p>【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信教育部学習環境・サポート制度 https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/ 『法政通信』、各年月号 	
②学生の学習指導を適切に行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※取り組み概要を記入。

通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを利用し、直接担当教員の指導を受けることが出来る。夏期・冬期スクーリングにおいて「通信教育部生のつどい」を実施し、学生間、教員と学生間での情報交換を行う場が設けられている。Web 通信学習相談制度を利用し、学習計画、レポート作成、試験対策について通信教育部の卒業生による学習指導を受けることが出来る。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学習環境・サポート制度

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/>

- ・『法政通信』、各年月号

1.3 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。

S A B

【確認体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・すべての通信学習・スクーリング学習科目のシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているか学務委員が確認を行っている。
- ・レポートや筆記試験における不正行為の有無については、基本的に個別教員の判断に委ねるが、不正行為が発覚した場合は、経営学部教授会にて厳正な処分を行い、通信教育部学務委員会とその情報を共有する。
- ・他大学、専門学校、本学通学課程からの編入学生の既修得単位の認定は、事務と連携し、学務委員が通読判定の際、厳正に対応している。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部商業学科 Web シラバス

1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。

はい いいえ

※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。

- ・進級判定は、卒業判定と併せて経営学部教授会にて審議を行っている。
- ・成績分布、学生アンケート、レポート提出数、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等のデータは、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告し、情報を共有している。
- ・在学年限を超えた学生の再入学について学務委員が公正な審査を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

商業学科の学習分野は多様であるため、その学習成果の測定については、すべての科目のシラバスに適切に記載する必要がある。商業学科の学務委員二人は、シラバスに成績評価の方法と基準について不明確な記述がないかなど、シラバス第三者確認を開講時期に合わせて順次行っている。学習成果の把握は、スクーリングの最終試験、レポート添削や単位修得試験などによって適切に行われている。レポートや卒業論文などの学習成果物に対しては、経営学部教授会等で不正行為防止用ソフトウェアの利用を科目担当教員に促し、学習成果の客観的な評価に努めている。成績分布等のデータは通信教育学務委員会を通じて教授会に報告されている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部商業学科 WEB シラバス

③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。

S A B

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

※取り組みの概要を記入（取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等）。

個別学生の学習成果は、修得科目の状況やその成績によって把握している。通信教育科目は、レポート添削に加え、単位修得試験によって学習成果を測定している。スクーリング科目は、授業参加度と授業最終日に実施する最終試験でその成果を測っている。メディアスクーリング科目においても、最終試験に加えて中間レポートを課すなど、学習成果の把握に努めている。

【2019年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2019年度から開始された通学課程の新カリキュラムと連携されたバランスのとれたカリキュラム体系をとっており、幅広い年齢層、多様な社会経験を有する学生のニーズに応えるため、職務経験を有する教員が授業を担当するなど、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されている。さらに、専門科目は経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるよう配置されており、カリキュラムの順次性・体系的性が確保されている。教員による履修指導は、Web学習サービスによる授業計画管理、学習ガイダンスによって適切に行われ、学習指導は、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に行われている。成績評価と単位認定の適切性については、学務委員がシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているか確認しており、また、レポートや筆記試験における不正行為が発覚した場合は、経営学部教授会にて厳正な処分が行われ、通信教育部学務委員会とその情報が共有される。進級判定は教授会にて審議され、成績分布などのデータは通信教育学務委員会を通じて教授会に報告され共有される。学習成果は、スクーリングの最終試験、レポート添削や単位取得試験などによって把握されている。

III 2019年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的	
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。	
	年度目標	—	
	達成指標	—	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	—
		理由	—
		改善策	—
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化	
	年度目標	—	
	達成指標	—	
	年度末	教授会執行部による点検・評価	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	報告	自己評価	－
		理由	－
		改善策	－
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実	
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムの提供に努める。	
	達成指標	授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。経営学部新カリキュラムと歩調を合わせたカリキュラムの提供に努める。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		昨年度からカリキュラムマップ及びツリーを通信教育部のウェブ・ページ、学習ガイダンスなどにて学生に周知活動を行っているなか、今年度はアセスメント・ポリシーを策定し、カリキュラム運営に更なる透明性をもたらした。専任及び兼任教員の専門性を考慮し、通学課程のカリキュラムと同水準の通信学習・スクーリング科目が提供されるように時間割編成に努めた。商業学科の学習分野は多岐に渡っているため、各科目の学習内容の概要・学習成果の測定については、更なる明確なガイドラインが求められている。各科目のシラバスに当該事項について不明確な記述がないか、学務委員によるシラバス第三者確認を各科目の開講時期に合わせて順次に行った。	
改善策	通学課程では今年度新カリキュラムが発足しているが、その効果を見据えながら今後通信課程でのカリキュラム提供において更なる改善を図りたい。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。	
	年度目標	ICT 技術の著しい発展に伴う学習方法の変容は必至であることを認識すると共にメディアスクーリングの拡充とその質の改善に努める。	
	達成指標	メディアスクーリング科目の開講や再収録について教授会などで周知する。その他の各種スクーリングについても担当教員の配置が適切に行われているか、経営学部教授会などで検証する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
理由		今年度も経営学部教員担当のメディア・スクーリング科目を着実に提供し、高い学習ニーズに応えた。更に経済学部教員と連携しながらメディア・スクーリング科目の拡充・質の向上に努めた。担当教員の専門性、履修者のニーズなどを考慮し、通信学習科目と各種スクーリング科目をバランスよく編成した。	
改善策	ICT を活かした学習方法の提供を引き続き進めていく。通信教育部共通の課題でもあるが、通学課程の授業支援システムあるいはそれと同等の機能が備わったシステムが導入されると、よりインタラクティブな学習が実現できると思われる。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める	
	年度目標	学習ガイダンスなどを通じて学生の学習計画について立ち入った指導を行う。担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。	
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		通信課程の特徴といえる卒業所要年数の長期化に対処するため、学務委員による学習ガイダンスの実施、各授業担当教員によるきめ細かい指導を通じて卒業所要年数の軽減に努めた。また、学務委員による合計7回に渡る通読判定の際、入学後単位修得の可能性について細心	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

			の注意を払いながら志願者の学習意欲と基礎学力の精査を行った。
		改善策	引き続き、在学生・卒業生アンケート、授業改善アンケート、学習ガイダンス・アンケートなどからの要望を把握し、学習ガイダンスなどにて学習意欲の維持及び学習支援に努める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。	
	年度目標	学習ガイダンスにての指導のみならず、各担当教員にも、レポートの書き方指導の徹底化や学習意欲を高めるための更なる工夫を呼びかける。	
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		商業学科では離脱者軽減のために第一線の各担当教員が適切な学習指導・動機付けに努めた。学務教員による年2回の学習ガイダンスにて学習プランについて詳細な指導を行った。通読判定時に行う在学期間延長審査の際にも厳正な対応に努めた。	
改善策	各種アンケート結果などから学生の要望を汲み取り、学習の動機付けを促す学習指導を強化する。通信教育部共通の改善点でもあるが、学習サポート制度（学習ガイダンス、Web 学習相談、学習質疑など）に対する認知度を向上する必要がある。		
No	評価基準	学生の受け入れ	
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。	
	年度目標	通信教育部ホームページのコンテンツ充実化に協力すると共に、入学相談・学習ガイダンス・授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的には商業学科の評判の引き上げを目指す。	
	達成指標	商業学科の入学者と在籍者数は学科単位としては最も多いが、引き続き、中長期的な推移を検証していく。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		商業学科の今年度前期・後期合計本科生出願者数と入学者数は共に前年度に比べ其々56名、40名増加し、堅調な推移を示した。通読判定時には志願者の質を確保しながら厳正な入学者選考に努めた。	
改善策	長期的にも通教事務課と連携しながら商業学科に対する評判の向上に努める。		
No	評価基準	教員・教員組織	
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。	
	年度目標	専任及び兼任教員の専門性を考慮し、バランスの取れた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。	
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携を取りながら、科目担当教員が適切に配置されているか、検証していく。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		通信学習科目と各種スクーリング科目、その内とりわけ柔軟性の高い「経営学特講」や「演習」に専門性を考慮した担当教員の配置に努めた。	
改善策	引き続き、通信学習科目と各種スクーリング科目においてバランスの取れたカリキュラム編成に努める。		
No	評価基準	学生支援	
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。	
	年度目標	最終試験の際の不正行為のみならず、レポート・卒業論文の作成時に剽窃などが行われないよう、各教員による指導を徹底する。不正行為防止案内冊子の配布、学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。	
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

		防止に努める。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	レポート・卒業論文作成に当たり各授業担当者によるきめ細かい不正行為防止指導が行われた。また学務委員による年2回の学習ガイダンスにて不正行為防止のための徹底した指導を行った。
	改善策	引き続き、前期・後期における3ステップの学習ガイダンス、学習のしおり、ウェブページにて不正行為防止のための周知活動に努める。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるために、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在学生の繋がり場の強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心掛ける。
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
自己評価		A
理由		通教事務課と連携しながら入学前の事前相談に対応するなど、開かれた姿勢で通読判定に努めた。本学科と大原学園間の併修協定による今年度入学者数は大原学園在籍者・卒業生共に増加した。大原学園の広告配信による本学科の広報効果が期待される。とりわけ大原学園卒業生の入学者増加が堅調であり、長期的な視点から多様な入学ニーズに応えることができた。
改善策		障がい者の出願時の対応のみならず入学後学習上のサポートも、事務課並びに学生相談室と連携しながら強化していく。
【重点目標】		
まず、今年度も引き続き、学生の受講希望の高いメディアスクーリング科目の拡充とその質の改善に努める。次に、兼任教員と経営学部専任教員の専門性を考慮し、通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムの提供に努める。この際、今年度から始まる通学課程の新カリキュラムの方向性と歩調を合わせるために、通信課程のカリキュラムツリーとカリキュラムマップのアップデートを検討すると共に、バランスの取れた授業編成に努める。		
【年度目標達成状況総括】		
経営学部専任教員及び兼任教員の専門性と履修者の学習ニーズなどを考慮し、通信学習科目と各種スクーリング科目をバランスよく提供した。とりわけ、メディア・スクーリング科目については引き続き多様な分野の科目を提供し、高い学習ニーズに応えるよう努めた。カリキュラムマップ・ツリーに加え、アセスメントポリシーを策定し、カリキュラム運営に更なる透明性をもたらした。通学課程では今年度に新カリキュラムが発足しているが、その効果を見据えながら今後通信課程のカリキュラム提供において更なる改善を行っていく。		

【2019年度目標の達成状況に関する大学評価】

<p>2019年度目標は適切に設定され、ほぼすべてについて目標を達成している。通学課程のカリキュラムと同水準の通信学習・スクーリング科目が提供されるよう時間割が編成され、経営学部専任教員担当のメディア・スクリーニング科目においては、多様な分野の科目が提供されるなど、カリキュラムの拡充・質的向上に向けた取り組みが行われたことは高く評価できる。また、各科目のシラバスについて不明確な記述が無いかなど、開講時期に合わせて学務委員によるシラバス第三者確認が適切に行われており、評価できる。</p>

IV 2020年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。
	年度目標	—

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

	達成指標	—
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。
	達成指標	授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準にあることを発信する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
	年度目標	ICTの著しい発展や社会環境の変化に伴う学習方法の変容に対応することを重視し、メディアスクーリングの拡充とその質の改善に努める。
	達成指標	メディアスクーリング科目の開港や再収録について教授会などで告知する。その他のスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	入学ガイダンスなどを通じて学習計画に立ち立った指導を行う。担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。
	年度目標	学習ガイダンスでの指導のみならず、各担当教員にも、レポートの書き方指導の徹底や、学習意欲を高めるためのさらなる工夫を呼びかける。
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握する。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	通信教育部のコンテンツ充実化に協力するとともに、入学相談・学習ガイダンス・授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的な商業学科の評判の向上を目指す。
	達成指標	商業学科の入学者数と在籍者数は、学科単位としては最も多いが、引き続き、中長期的な推移を検証していく。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。
	年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。
	年度目標	最終試験の際の不正行為のみならず、レポートや卒業論文の作成時に剽窃などが行われないよう、各教員による指導を徹底するとともに、不正行為防止冊子の配布、学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて、授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり の場を強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを 通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動 機付けを行う。
<p>【重点目標】 メディアスクーリング科目の充実と質のさらなる改善</p> <p>【目標を達成するための施策等】 科目の授業形態の現状を把握した上で、カリキュラムツリーとカリキュラムマップをもとに、バランスに留意しつつ、学生 からの要望が多いメディアスクーリング科目の量・質の充実を図る。そのために、教授会等でメディアスクーリング科目の 担当者を新たに募集し量の充実を図るとともに、教授会構成メンバーに対してオンデマンド授業のノウハウを情報共有す る場への参加を促すことで質の向上も図る。</p>		

【2020年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

重点目標は、ICTの著しい発展や社会環境の変化を背景として、メディア・スクーリング科目の充実と質のさらなる改善としており、適切に設定されている。また、教授会において、担当者を新たに募集し、オンデマンド授業のノウハウを共有する機会を設けるなど、目標を達成するための具体的な施策が設定されている。カリキュラムについては、2019年度から開始された通学課程の新カリキュラムと連携されたことでより体系化されたが、引き続き、授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取り、効果・検証を繰り返しながら、さらなる充実を期待したい。

【大学評価総評】

経済学部商業学科通信教育課程は、幅広い年齢層、様々な社会経験を有する学生の多様なニーズに応えるため、カリキュラムを2019年度から開始された通学課程の新カリキュラムと連携させるとともに、専門科目は経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるなど、バランスのとれたカリキュラムを提供している。2019年度はメディア・スクーリングも拡充された。今後は教授会などで効果の把握・検証を適切に行うことで、更なるカリキュラムの充実を期待したい。

学習指導は、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを通じて適切に行われている。また、夏季・冬季スクーリングで「通信教育部生のつどい」が実施され、学生間及び教員と学生間で情報交換を行う場が設けられているが、これは学生指導という側面だけでなく、カリキュラムや授業の改善に資する学生の意見や意識の把握という側面も持っているため、大変意義があると考えられる。

成績評価と単位認定は、学務委員がシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているか確認しており、適切性が担保されている。

出願数や入学者数の増加、離籍率の低減に関する対応は、通信課程の性格上、困難であるが、受け入れ時における学科への適正確認や学習意欲の判断だけでなく、カリキュラムの拡充や授業改善、また、教員、学生間の双方向によるコミュニケーションを量・質ともにより充実させるなど、総合的な対応を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。